

国立大学法人大分大学長の業績評価について

国立大学法人大分大学学長選考会議規則（平成16年規則第10号）及び国立大学法人大分大学長の業績評価に関する申合せ（平成28年3月24日 国立大学法人大分大学学長選考会議）に基づき、下記のとおり国立大学法人大分大学長の業績評価を実施したので、同申合せ第4の規定により公表します。

令和4年(2022年)1月27日

国立大学法人大分大学学長選考会議
議長 杉原正晴

記

- 1 学長氏名 北野正剛
- 2 評価対象期間 令和2年(2020年)10月1日～令和3年(2021年)9月30日
- 3 評価結果 学長は大学運営・経営について適切に遂行していると判断する。
- 4 確認状況

学長選考会議は、国立大学法人大分大学長の業績評価に関する申合せ（平成28年3月24日 国立大学法人大分大学学長選考会議）に基づき、自己評価書等を参考とした上で、学長との面談を実施し、業務執行状況の確認を行った。

主な確認項目は以下のとおりである。

【学長としての重点的取組事項】

全国共同利用型研究施設の設置、学部改組の状況等について確認した。

【大学運営に関すること】

経済学部や理工学部の見直しの方向性、大学院改組の実行、女性研究者の活躍、駐車場整備にかかる土地の購入手続等について確認した。

【管理運営に関すること】

理事等の業績評価の在り方、幹部職員の世代交代、監事と理事の役割分担、職員教育等について確認した。

【教育に関すること】

産業・経済界の求める人材育成方針、教育マネジメント機構の機能、附属学校園の今後の在り方、退学・休学者への対応、高大接続の取組状況等について確認した。

【研究、地域貢献に関すること】

研究費獲得の向上策、研究マネジメント機構の活用方策等について確認した。

【医療、国際に関すること】

遠隔医療、ロボット医療、ブータンにおけるがん医療の更なる推進、基幹災害拠点病院、コロナ禍における進展事項、今後の国際展開等について確認した。

5 付帯意見

大学には、人材育成や地域産業の発展など幅広い観点での貢献が期待される一方で、18歳人口が減少局面に入るなど、大学の在り方も大きく変化している。これらの変化に対応しつつ、これまで以上に入学者の確保や外部資金の獲得に努め、研究費の適切な運用を行い、情報公開を推進しながら経営の効率化を図っていただきたい。

また、教育マネジメント機構と研究マネジメント機構を両輪として教育研究を推進するとともに、世界に通じる卓越した研究や環境変化に対応できる人材育成を行うなど、教育研究拠点として地域のポテンシャルを引き出し、地方創生にも貢献していただきたい。

今後も引き続き、学長がリーダーシップを発揮することができるガバナンス体制の更なる構築を行い、教職員と一致協力しつつ、より魅力ある大学となるよう、全学的視点を持って、大分大学を発展させていくことを期待する。

6 経緯

(1) 令和3年度(2021年度)第1回学長選考会議(令和3年(2021年)6月25日)

令和2年度に実施する学長の業績評価に関して、資料及びスケジュール案等を確認した。

(2) 令和3年(2021年)10月中旬から令和3年(2021年)12月中旬にかけて

学長に自己評価書の提出を依頼した。

前年度の実施実績を踏まえ、学長の業務執行状況を確認するに当たっての参考資料(平成28年3月24日付け国立大学法人大分大学長の業績評価に関する申合せ第3の2項)について、学長選考会議委員に事前に送付し、確認を願った。

(3) 令和3年度(2021年度)第2回学長選考会議(令和3年(2021年)12月21日)

学長から提出された「自己評価書」を含む事前に送付した(2)の参考資料の最終確認及び当日の流れ等について確認を行った。

(4) 令和3年度(2021年度)第3回学長選考会議(令和4年(2022年)1月27日)

学長との面談を実施し、評価結果を取りまとめた。

また、会議終了後、議長から学長へ通知した。